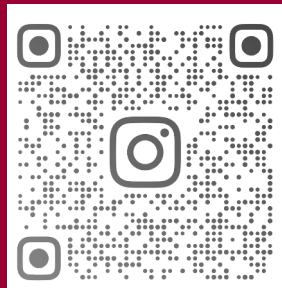


2月のイベントカレンダー

日	曜	行事予定
1	火	13:30 日本語サロン
2	水	
3	木	
4	金	
5	土	
6	日	休館日
7	月	休館日
8	火	13:30 日本語サロン
9	水	
10	木	
11	金	休館日
12	土	
13	日	13:30
14	月	休館日
15	火	13:30 日本語サロン
16	水	
17	木	
18	金	
19	土	
20	日	休館日
21	月	休館日
22	火	13:30 日本語サロン
23	水	休館日
24	木	
25	金	
26	土	10:00 出張JICAデスク 13:30 情報紙発送作業 13:30 スポーツサークルUniship
27	日	14:00 国際理解講座
28	月	休館日

※感染症の影響で行事が中止や延期になることがあります。ご心配な場合はお問合せ下さい。



フォローしてね

AWIA_PHOTO

第29回 ヨーロッパをよく知ろう！セミナー

キプロス共和国からゲストを迎え、文化やライフスタイルについてのお話をお聞きします。講演後はキプロスのお菓子をいただくティーパーティーを開催します。



日 時 2月24日(木) 13:00
場 所 ホテルニューパレス(市内中町2-78)
講 師 駐日キプロス共和国 特命全権大使 ハリス・モリス閣下
定 員 40名(定員になり次第締切)
参加料 1,500円
主催・申込・問合せ 会津EU協会事務局(会津若松商工会議所内)
TEL 0242-27-1212 FAX 0242-27-1207
※感染症の状況により、セミナーを中止する場合があります。

国際交流スポーツサークル Uniship 第2回

国際交流スポーツサークルUniship(ユニシップ)の第2回めはボルダリングに挑戦します。運動しながら交流の輪を広げたい方はぜひ！

日 時 2月26日(土)
①13:30～15:00 ②15:00～16:30
場 所 ボルダリングジム「ENISHI」
(市内栄町1-19)
対 象 18歳～39歳までの方
定 員 ①、②それぞれ5名まで
参加料 1,300円(使用料、貸し靴料の実費)
問合せ 会津若松市国際交流協会
申込み 2月24日(木)までに[Google Form](#)にて。
申込みフォーム→



出張JICAデスク in会津

青年海外協力隊として南米ボリビアで活動した現JICA福島デスクの笹尾さんが、当協会では皆さんの質問に答えます。JICAの取り組み、異文化理解、探究活動相談など関心のある方は、ぜひお越し下さい。オンラインやメールでも対応します。



日 時 2月26日(土) 10:00～16:30 場 所 当協会

情報紙発送ボランティア

情報紙の袋づめなどの簡単なボランティアです。予約は必要ありません。会員外の方もお気軽にご参加ください。

日 時 2月26日(土) 13:30～ 場 所 当協会

<http://facebook.com/awiajp>



イベントの最新情報をお届けします！

会津若松市
国際交流協会
〒965-0871
会津若松市栄町2-14
リオン・ドールガーデン5階
TEL: 0242-27-3703
<http://awia.jp>
メール: mail@awia.jp



“外国人”と「やさしい日本語」で話してみよう

福島県国際交流協会の幕田 順子さんを迎え、「やさしい日本語」とは何か？その話し方について学びます。第二部では実際に、ゲストの在住外国人と「やさしい日本語」を使って交流します。私たちの日本語は、知らないうちに、“わかりにくい日本語”になっているかもしれません。少しの工夫で“わかりやすい日本語”にする方法を、一緒に学んでみませんか。

感染症拡大防止のため、講師はオンラインで参加します。参加者のみなさんは、会場参加とオンライン参加(ZOOM)のどちらかを選んでいただけます。定員がありますのでお早めにお申し込みください。

「やさしい日本語」とは

「やさしい日本語」とは、簡単な日本語を話すことができる在留外国人が多いことに着目し、普段使っている日本語を簡単な単語に言い換えて話す、わかりやすい日本語のことです。

1995年の阪神・淡路大震災では、日本にいた多くの外国人も被害を受けました。その中には、日本語も英語も十分に理解できず、必要な情報を得られなかった人もいました。そこで、災害発生時に、日本語が不慣れな外国人に、素早く的確に情報を伝えるために考案されたのが「やさしい日本語」です。

例:「断水」→「水が出ません」

日 時	2月27日(日) 14:00～15:30
会 場	どちらかを選んでください。 ①會津稽古堂研修室1 ※定員10名 ②自宅よりオンライン(ZOOM) ※定員 15名
講 師	幕田 順子氏 (県国際交流協会 主任主査)
内 容	外国人と「やさしい日本語」で話してみよう 第一部:講義 ・なぜ、今「やさしい日本語」なのか？ ・「やさしい日本語」で話すポイント？ 第二部:ワークショップ 日本語を学んでいる方、日本語で交流したい外国の方をゲストに、「やさしい日本語」を使ってグループで話してみよう。
参加費	無料
申込み	2月25日(金)までに当協会へ ※先着順受付とし、定員を超えた場合は会員、および市内在住者を優先させていただきます。 ※オンライン希望の方はメールで。 mail@awia.jp 件名:「国際理解講座申込み」 ※メールには受付メールを返します。受付メールが届かない場合は電話でご連絡ください。 ※2月26日(土)までにZOOMのURLを送ります。



外国人住民の学び会

中国語で勉強会 日本の“年金”について一緒に学びませんか？

みなさんのお近くに、日本の社会保障制度がわからなくて困っている中国出身の方はいませんか？「年金ってどんなしくみ？」「ねんきん定期便の見方がわからない」今回はそんな声にこたえて、国際交流員の黄(こう)が、中国語で交流しながら一緒に年金制度について学ぶ会を開催します。

母国語で話せる場があることは、もしもの時の安心につながります。お知り合いの中国の方にご周知願います。



日 時 3月13日(日) 14:00～16:00
場 所 會津稽古堂 研修室1
ファシリテーター 黄 衛(国際交流員)
定 員 8名
対 象 中国語でお話に参加できる方
参加費 無料
持ち物 「年金定期便」※持っていれば
申込み 3月12日(土)まで当協会へ

小学生の国際理解クラス ハローワールドクラブ(9月～12月、全8回)

事業レポート



世界をめぐる旅 最後はベラルーシへ！

小学生対象の国際理解クラス「ハローワールドクラブ」全8回が修了しました。今年は手作りパスポートを手に、南米ペルー、アメリカ、シンガポール、タイ、マダガスカル、フランス、ベラルーシの文化を楽しみながら体験しました。参加者のお母さまから届いたお頼りと、活動の様子をご紹介します。

保護者からの便り

子どもは4年生からお世話になり、毎年参加できる事を楽しみにしていました。英語を使うのも楽しかったようです。いろいろな国の話も教えていただき、若い頭の中に新しい知識が増えていきました。来年は中学生のため、この講座には参加出来なくなりますが、また何かの機会でお会いできればいいなあと思っております。お世話になり、ありがとうございました。

シンガポールの旅



ランタンを作ってアジアの中秋節のお祝いをしました。



マダガスカルの旅

「物を頭にのせて運ぶ」現地の風習を、風船ゲームで体験しました。



タイの旅

魚のお守り“プラータピアン”を作り、タイのキックボクシングを体験しました。



パスポートにはノラ手作りの消しゴムスタンプを

ベラルーシの旅

外は寒いけど中は暖かいベラルーシのクリスマスを体験。紙袋で雪の飾りを作りました。



フランスの旅

フランス出身のエミリーさんからは、フランスのお菓子の紹介を。



どの国が楽しかったかな？
また来年をお楽しみに！

キャプションコンテスト



1月号のキャプションコンテストへの応募作品をご紹介します。英語版は、贈り物は相手のことを思う気持ちが大事だと。会津弁版はコロナ禍でも変なマスクは嫌、というところでしょうか。素晴らしいキャプションをありがとうございました。

“Remember to give gifts from the heart and not for your pride, or you will become a Tengu like me!” サラ・マーキーさん

左の人： なじよ？さすけねえべか、このマスク？

右の人： やんだあー、おらー。めんごい、赤べこマスクにしてくらんしょ！
(会津弁バージョンで。Bさんは特に天狗の人が嫌いです…) 関澤 一幸さん

◆赤べこサロンが終了します！ あいづ広域観光情報センター内で、外国人と地元民を繋ぐ交流サロンを開いていたブケ 南口 エミリーさんが、いわき市に引っ越すことになりました。サロンの最終日は2月17日です。エミリーさんより一言：「みなさんといろいろなお話ができて楽しかったです。いわきにも遊びに来てくださいね」

インタビュー



直美さんと3人の技術者たち。福島市の御倉邸のお庭で

東京2020オリンピック・パラリンピックの舞台裏
人生で一番大変だった、やんちゃん弟たちとの最高の思い出

Q. 東京2020オリパラ関連のお仕事をしていたと聞きました。どこで何をしていたのですか？

大会の放送、テクノロジー機器、競技用照明などの重要電源を供給し、大会運営と世界への映像発信が着実に進めるようにサポートする会社で働きました。具体的には、ニュージーランド、ベナン共和国(西アフリカ)、フランス出身の計3人の技術者たちの英語通訳を行いました。技術者3人は全く日本語が話せず、現地の日本人関係者はほとんど英語が話せません。私はあづま球場の仮設事務所に駐在し、彼らと日本人をつなぐ役割でした。

Q. 人生で一番大変な体験だったそうですが、何が大変だったのでしょうか？

一番大変だったのは、日本の常識が外国人の彼らに通用しなかったことです。例えば、「段取りがすべて」、「問題は未然に防ごう！」という日本の常識が、彼らは納得できません。日本のスタッフから「明日は雨、風になるから必ず重しをして帰るように」と言われても、「なんで？雨が降ったらやればいいじゃん」と言います。ラジオ体操を毎朝みんなでやる意味がわかりません。ちゃんとやらないと安全のために帰されてしまうので、「ちゃんとやってね、怒られるから」と注意すると文句を言います。他にも仕事中に突然クッキーを食べ出すのに注意したり、「もう疲れたから、雨がふったから、今日は終わりだ」と帰ろうとするのを説得したりしました。「俺らはこうだよ」と言われれば、「そりゃそうだよな」とわかることもありましたが、でも、現場のルールは厳しくて、従ってもらうしかありません。彼らも不満がたまっていたことでしょう。面白くないとFワードを連発しました。「日本語の罵り言葉を教えてくれ」と言われたこともありました。

Q. 両者の板挟みになったのですね。

そうです。いつも双方に理由を説明していました。どちらも職人さんだからでしょうか、特に仕事のことにになると譲らずに、荒々しくなることもありましたが、辞めたくありませんでしたが辞めなかったのは、3人には私しかないと思ったからです。彼らとは喧嘩もしたけれど、仲良くやるしかないという割り切りがありました。

Sato Naomi

佐藤 直美 さん

福島市在住の通訳ガイド／通訳者／翻訳者。JICAの研修管理員として、昨年、当協会の青年研修事業を担当していただいている。趣味は、お茶やお花、お習字、着付けなどの日本文化全般。

2021年の4月から9月までの半年間、東京2020オリパラの電力に関わる会社で通訳・翻訳の仕事をした佐藤 直美さん。オリンピックの舞台裏で繰り広げられた職人たちの異文化衝突を、見事な手腕で受け止めサポートしました。仕事として友人として、大奮闘したその半年間をお聞きました。



Q. 休日には3人をお出掛けに連れ出したそうですね。どんな思い出だったのでしょうか？

せっかく日本に来たのだから、楽しい思い出を作っておきたかったです。いろいろ企画して、友人も誘って花見山や土湯温泉、被災地ツアーや浄土平登山、鶴ヶ城にも行きました。五色沼でカヌーをしたらカヌーから落ちちゃって(笑)。飲みにも行きましたが、彼らがすぐに羽目を外すので大変でした。やんちゃん弟たちのビッグシスターでしたね、私。次は何をやらかすかしら？っていつも思っていました。彼らからは、「直美、誘ってくれなくてもいいんだよ、大変じゃない？」と心配されましたが、誘わずにはいられませんでした。それに、声をかければ必ずみんな来ましたが、仕事では悩んだけれど、日常ではこうして楽しい時間を過ごしました。そのうちに彼らも、「日本とはこういう国だ」と分かってくれたのですね。だんだんと日本のスタッフとも協力体制ができました。彼らからは最後に、手作りのアルバムと手紙をもらいました。手紙には、「休みの日の企画が最高だった！」と書いてありました。

Q. オリンピックの舞台裏で、直美さんが大奮闘したことがわかりました。最後に感想をお願いします。

夢のような半年間でした。人生で一番のイベントで、やりがいのある仕事でした。実は全体の10%ほどしかお話ししていません。思い出が多すぎて、死ぬときにはこのヘルメットを棺に入れてもらいたいほどです。「どうして私たちと彼らはこうも違うのか？」「なぜ私たちこう考えるのか？」と悩んだ半年間でしたが、ある日、お茶の先生の所に行ったらわかりました。「段取りがすべて」も、先の事態に備えることも、「茶の湯」の心得なのです。お茶は日本の総合芸術で、日本人の心の全てに通じるところがあるそうです。それは知らず知らずのうちに、私たちの生活の全てに及んでいて、私たちはそこで育ってきたからそれが当たり前だと感じるのです。理屈では説明できないことです。通訳案内士になってから、日本文化を紹介したくて始めたお花やお茶、お習字などが、今、私の中で落ち着いてきたと感じています。この仕事が好きですね。英語をやった良かったし、真ん中に立って人と人をつなぐのが大好きです。